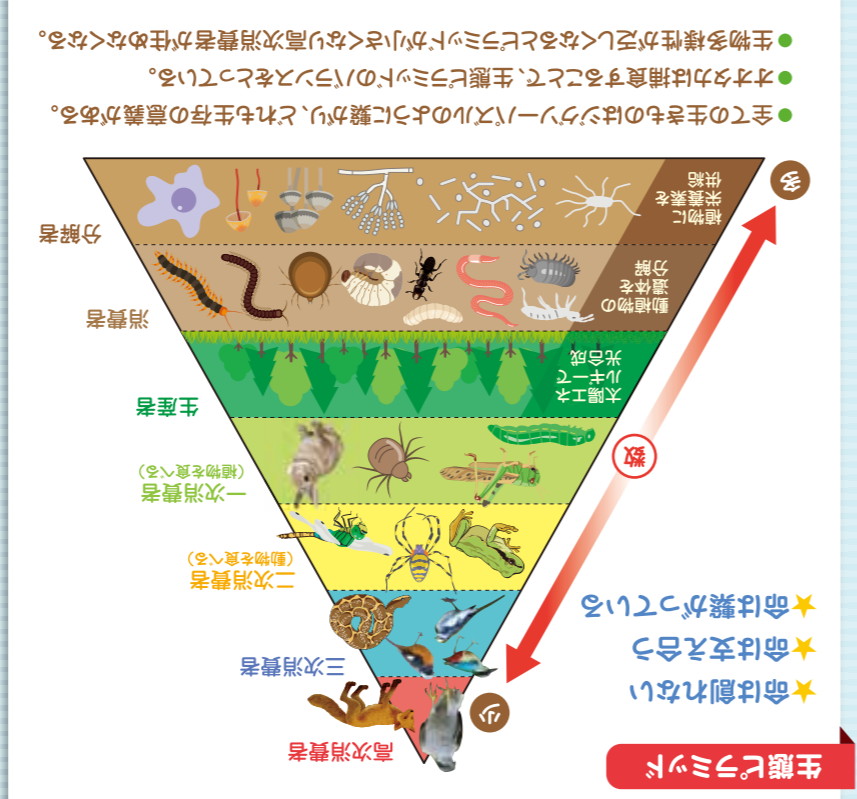


科名	種名	種別	科名	種名	種別
キジ	キジ	留鳥	キジ	キジ	留鳥
カモ	カモ	渡鳥	カモ	カモ	渡鳥
...

- 鳥はなぜ空を飛べるの？
- ツバメなどの渡り鳥はなぜ迷わず戻ってくるの？
- 雄鳥は雌鳥より目立つ色の羽が多いのはなぜだろうか？
- 鳥は夜にも目が覚めるの？
- 種類毎に轉り回る音が異なるけど、どうやって覚えているの？
- アオバスの目は正面に、ハトの目は横についているのはなぜだろうか？
- 鳥はなぜソッとするの？

「鳥の不思議」なせいでいい？」



森の仕組み

そひめ森林公園の野鳥

バードウォッチングのコツ!

- 注意深い観察** 鳴き声(耳を澄ます。声の方をじっと見つめる。鳥は必ず動くから見える。)、体形、色彩、模様、飛び方、止まり方など。
- 図鑑** 鳴き声を聞ける図鑑もある。スマホやインターネット(YouTubeに鳴き声や姿の動画あり)も活用するとよい。
参考書:『野外観察ハンディ図鑑①山野の鳥 ②水辺の鳥』日本野鳥の会『鳥 630 図鑑』日本鳥類保護連盟 など
- 時刻** 鳥は早起き。春夏は日の出の30分前から2時間くらいはよくさえずる。冬は季節風の吹かない暖かい日中がよい。
- 環境** 明るい樹林、暗い樹林、林縁、突出した木、鳥の好む木の実、バードバス、開けたところなど。ほぼ決まった種が生息する。
- メモ** フィールドノートに観察した鳥の名前や生感、場所と年月日時分、天候などをメモしておくことで後で参考になる。データが溜まると、「その環境では、どの時期に、その鳥に会えるか」を予測できるようになる。

双眼鏡の使い方

- 倍率…通常7〜10倍。8倍(80m先を10mに近づける)が適している。(遠くの鳥を見るときは、20〜60倍程度の望遠鏡がよい。)
- 対物レンズ径…22〜42mmくらいがよい。数字が大きいがほど明るいのが重くなる。
- 眼幅の調整をした後、左右の視度を調整する。
①左眼で、ピントリンクを回して合わせる。
②右眼で、視度調整リンクを回して合わせる。

フィールドの心得

- 野鳥の巣に近づかない。営巣を放棄する恐れがあります。
- 野鳥の近くで、機器で鳴き声を再生しない。テリトリーを攪乱します。
- 植物などは持ち帰らない。カメラで撮りましょう。
- 地図・コンパス・スマホがPad(グーグルマップ)があると、便利です。
- 飲み水のほか、アメ・チョコレートなども持ってゆきましょう。
- 食べ残しなどゴミは持って帰りましょう。動物の餌になりますから。
- トイレは済ませておく。どこにあるかも調べておきましょう。

お問い合わせ

えひめ森林公園は、県内最大のため池「大谷池」湖畔の森林にあり、県民の皆様にも、自然との触れあいを通して森林の有する公益的機能や林業に対する理解を深めるとともに、心や体のリフレッシュをしていただくことを目的として、昭和59年に愛媛県により開園されました。

えひめ森林公園管理事務所

〒799-3104 愛媛県伊予市上三谷 TEL (089) 983-3069
E-mail / aimori-kouen@aimori.or.jp
HP / http://www.aimori.jp/park/index.html
駐車場 / 無料
開園 / 9:00〜17:00 年末年始(12月28日〜1月4日)を除き無休



【発行】愛媛県農林水産部森林局森林整備課 【協力文】石川和男(理学博士) 【写真提供】増淵 謙一(野鳥写真家) 印刷/平和印刷工業株式会社 令和3年3月発行

えひめ森林公園 バードウォッチングガイド

Ehime forest park bird watching guide

発行 / 愛媛県 このリーフレットは愛媛県森林環境税を活用して作製しました。

危険な生き物

アカシギ 体長35-55cm 脚長45cm 翼長100cm

ツバメ 体長10-12cm 翼長5-6cm

その他

愛媛森林公園散策マップ

えひめ森林公園の野鳥たち

大谷池と谷上山の森を有する「えひめ森林公園」は、水辺から山野の鳥まで、四季を通してバードウォッチングを楽しめる、豊かな自然に恵まれています。この公園の魅力は、何といても人口50万都市の近くで、サンコウチョウ、オオルリやキタキの、コロラトゥーラソプラノの歌声を聴けることです。また、環境指標動物として陸域生態系の上位に立つオオタカも、豊かな自然の証です。では、ここで、公園内で記録のある100種以上の鳥を、大きく4つに分けてご紹介しましょう。

夏鳥 春に南方から渡ってきて、公園で繁殖する鳥たちです。5月10日から16日までの「愛鳥週間」(バードウィーク)とその前後の早朝には、谷から鳥たちの合唱が湧き上がり、最も賑やかに楽しい季節の到来です。また、上空ではコンアカツバメ、樹林帯ではホトギスなども見られ、どこからともなくヤイロチョウの大きな鳴き声が聞こえてくることもあります。

冬鳥 秋に北方から渡来して越冬するツグミ、シロハラ、ジョウビタキなどの鳥たちです。カモ類も大谷池に大挙してやってきます。年によって数は変わりますが、多いときは2000羽以上、種類も10種を超えます。観察小屋からはマガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシシジロ、キンクロハジロ、オシドリなどが、湖面に広がり、多種類の鳥たちの美しい姿を見て楽しむことができます。

留鳥 四季を通して見られる馴染み深い鳥たちです。夏鳥よりも早く、早春から巣作りを始め、よく囀るようになります。冬に落葉樹が葉を落とすと、林の見通しもよくなり、季節風の吹かない暖かい日の日中には小鳥の観察が容易です。シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラなどが、混群となって、「チチ」とか「ジュリジュリ」とか囀り合いながら、林の中をゆっくり移動して行く姿が見られます。この公園で生息数の多い種は、ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワなどです。鳥をしっかりと、時に松ぼっくりをかじっているニホンリスに出会うこともあります。

その他 エソビタキ、サメビタキなどの旅鳥や、ルリビタキ、ビンスイなどが高い山から下りてきて、公園で冬を越している渡鳥も見られます。バードウォッチングのコースとしては、大駐車場上手から第二林間広場の管理道もお勧めです。

昨今、インターネット依存症が話題になっていますが、「センス オブ ワンダー」を著したレイチェル・カーソンが提唱する、「自然の神秘や不思議さに目を見る感性」を養う体験を、子どもたちと一緒に体感してみませんか。「えひめ森林公園」は、そんな経験を授けてくれる身近な自然の宝庫・ホットスポットです。自当の鳥に出会えなくても自然の中で、いつも新しい発見があるでしょう。

石川和男(松山東雲女子大学名誉教授・日本鳥類保護連盟専門委員)

